

福祉サービス第三者評価の結果

1 評価機関

名称：有限会社 エフワイエル	所在地：390-0867 長野県松本市蟻ヶ崎台 24-3
評価実施期間： 平成 30 年 8 月 21 日から平成 31 年 1 月 31 日 * 契約日から評価結果報告会日まで	
評価調査者（評価調査者養成研修修了者番号を記載） 050512 061163 B25108	

2 福祉サービス事業者情報（平成 30 年 10 月現在）

事業所名：若槻保育園	種別：保育所
代表者氏名：市川 雅朗 園長：片山 安廣	定員（利用者数）：110 名（95 名）
設置主体：長野市 管理・運営主体：（学）信学会	開設年月日：昭和 47 年 4 月 1 日 管理・運営開始：平成 29 年 4 月 1 日
所在地：〒381-0051 長野県長野市若槻団地 1-509	
電話番号：026-243-2070	FAX 番号：026-243-2070
ホームページアドレス： http://k22.shingakukai.or.jp/	
職員数	常勤職員：16 名 非常勤職員：9 名
職員内訳等	保育士：20 名 栄養士：1 名 常勤職員の平均年齢：37.3 歳 調理員：3 名 事務員：1 名 平均在職年数：4.6 年
施設・設備の概要等	乳児室：1 室 ほふく室：2 室 保育室：3 室 調理室：1 室 事務室：1 室 遊戯室：1 室 屋外遊具：滑り台、鉄棒、ジャングルジム、雲梯 便所：3 室 砂場、プール

3 理念・基本方針

<p>○ 保育目標</p> <p>みんななかよし たのしいほいくえん</p> <ul style="list-style-type: none">・健康な心身の子ども（よく食べ、よく遊べる健康な子ども）・好奇心・探究心のある子ども（よく見、よく聞き、考えて行動する子ども）・やさしい心の子ども（やさしく、思いやりのある子ども） <p>○ 基本方針</p> <ul style="list-style-type: none">・食べる事、遊ぶことの大好きな子どもに・好奇心旺盛に見たり聞いたり考えたりできる子どもに・友達の気持ちがわかるやさしい子どもに

4 福祉サービス事業者の特徴的な取り組み

近隣には広い芝生・季節の木々・遊具など、特色のある9か所もの公園があり、それらを活用した散歩も多く、自然の中で体を動かしたりすることで身体の成長を促し、思い切り遊べる子どもが育っている。未満児においてもたくさん歩く保育を行っている。

また、異年齢のなかよしトリオの取り組みを通して、やさしさ、思いやりを育むとともに、食育の日や畑での野菜の栽培活動等を通して食材に興味を持たせ、運動や散歩による食欲増進により、好き嫌いをなく何でも食べる子どもを目指している。

5 第三者評価の受審状況

初回

6 評価結果総評（利用者調査結果を含む。）

国のガイドラインに基づき長野県の各サービス分野の評価基準等が改訂され、評価の判断基準も異なってきたので、初めにそのことについて説明いたします。

評価細目（別添1、2）に対する判断基準は以下の通りとなっています。

a：よりよい福祉サービスの水準・状態、質の向上を目指す際に目安とする状態

b：aに至らない状況＝多くの施設・事業所の状態、aに向けた取組みの余地がある状態

c：b以上の取組みとなることを期待する状態

つまり、「ある、ない」や「やっている、やっていない」という外的基準ではなく、やっている事の内容を評価員・評価機関が判断してa・b・cを決定しています。

そのため、当評価機関としてはaの場合は取り組み状況、b・cの場合は取り組み状況と検討課題を記載しています。

そして、各評価細目や利用者調査の内容を長期的、多面的、根本的に考え、事業所の全体像を把握して総評を決定・作成しています。

◇ 特に良いと思う点

○ 健康な心身の育ち

若槻保育園は公立から運営移管して、本年度が完全移管の初年度である。

園の運営や各種行事については保護者アンケートをとり、要望を聴きながら意向に沿うように努力しており、また、年2回のモニター会でも保育園での子どもの生活や施設運営について意見を聞いたり、希望をとって保護者に1日体験保育を経験してもらいながら理解を進めている。

職員の笑顔で子供達を受けとめる姿勢は保護者の共感を得て信頼感も深まり、新しい保育園の姿ができていく。

今後、法人の目指す保育理念も取り入れながら発展していくのであろう。

その若槻保育園では団地内の立地であることもあって、保育目標である健康な心身の子ども、好奇心・探究心のある子どもの実践として、近隣の広い芝生・季節の木々・遊具等、それぞれ特色のある公園が多数ある恵まれた環境を活用して、散歩などの園外保育を日々の日課に組み入れている。そして、各公園への散歩により、季節を知り季節感を培い、集団行動を知り、何よりも、歩行することで体力づくりに結びついている。

その公園の場所や遊具などについては子ども向けに職員がイラストで解説・掲示しており、行ってみたい、遊びたいと好奇心も掻き立てている。

また、年令ごとに体力に合う距離の公園に行って楽しむとともに、散歩中の気付きや発見を大事にした好奇心の醸成、地域の人たちとの声掛けで大人との挨拶、子ども自身の体力の向上につながっている。結果として、よく食べよく遊べる健康な子ども、よく見・よく聞き・考えて行動する子どもが育っている。

年少・年中・年長での3人の仲よしトリオの活動では、朝の体操、動物の世話等の異年齢交流も活発で、声掛けや整容の手伝いをしたりと、下級生に優しくできる子どもが育っている。

そして、子どもの健康な身体づくりのために食育を大切にして、子ども達の希望に添った野菜を栽培し、給食で調理してもらったり、年長クラスでは当番制で給食食材の準備の手伝いを行うなど、食材への関心も高めている。

当然、歯科検診・視力検査の結果については、完治や処方済みの結果を経るなど健康管理に努め、内科的処置が必要な場合は医療機関からの登園許可証明書の提出を持って登園可としている。

◇ 特に改善する必要があると思う点

○ 専門職としての記録

若槻保育園のグランドデザインのなかに、異年齢交流活動・なかよしトリオ活動を通しての遊びの中で起きるトラブルの子ども自身によるより良い解決、日々の保育や園内外の研修を通しての自己研鑽が謳われている。

この日々の保育の振り返りを基にした自己研鑽の素となるのは、専門職としての統一性、正確性を持った保育の提供の記録であり、また、その根拠である。

そして、福祉施設における記録は全て個人情報であり、また、開示請求に対しての正確・平易な内容での子どもの呼称を含めた記録内容の統一や、プライバシーに配慮したものが求められる。

つまり、記録方法の標準化と、記録すべきものとの意識の醸成による記録内容の充実である。

事故等の標準化でいえば、保育士間でのマニュアル等の確認とその通りに実施・記録されているか、ハインリッヒの法則についての研修とともに事故とヒヤリハットの内容の理解の促進、事故報告書における対処療法的な内容から原因療法的な内容へと再発防止に向けた取り組み、且つ、後日における各職員の意識や改善効果などが検証可能なものである。

朝の会で必ず行う子どもたちの楽しい絵本の読み聞かせでいえば、その際の子ども達の聞く姿勢について、育ちに合わせてどのように改善・効果が進んでいるのか、指導・支援に合わせた子どもの成長がどのように進んでいるのかを指導計画に沿って確認できる記録、つまり、専門職として提供する保育の根拠が誰にでもわかるようにすることである。

そうすることで後日の検証が容易となり、状況によっては検討を経た改善策へと進めることが可能となり、必要な研修や自己研鑽も視えてくる。

延長保育の記録内容を充実させて教えた整理・整頓や年長児の行動が年下の子どもの手本となっており、自立した主体性を持ったものになっているか、各種訓練の実施の際は子どもの様子はどうか、教育委員会の幼保小連絡会における就学前教育の学習面・生活面における課題についての文書化と検討を経たその改善や対応で子どもがどう変化したかなど、プライバシーの理解を深めたうえでの活用できる記録が求めたい。

実施することの先にある、本来の目的を意識しての保育の提供体制の整備が期待される。

若槻保育園では保育者の質の向上に欠かせない園内研修にも熱心で、従来型の伝達研修だけではなく十分との意識も高く、職員が相互に対話して主体的に学ぶ協働型の園内研修へと進めており、効果的な経験と工夫を更に加えて、子ども一人ひとりに向き合うための園全体での保育の提供を期待したい。

そのためにも、専門職としての記録とその活用についての意識の向上が必要であろう。

7 事業評価の結果（詳細）と講評
共通項目（別添１）
内容評価項目（別添２）

8 利用者調査の結果
アンケート方式（別添３－１）

9 第三者評価結果に対する福祉サービス事業者のコメント

今回の第三者評価において次のような点を始め多くの点について改善必要としてご指摘頂きました。

- ・園内の諸記録の書き方・内容に関して、職員の理解の深まりが必要。
- ・保育士の資質の向上のために目標管理シート作成等実施したい。
- ・保護者の園の取り組みへの理解を深める工夫必要。
- ・園行事や取り組みの結果分析と成果や根拠の文章化必要。
- ・地域の人達の保育参加、地域団体組織との連携が図れないか。

今回審査を受ける中で、より良い園にしていく努力の積み重ねと、課題を解決するための工夫が、日々の保育に傾注する中でおろそかになっていることを感じました。型どおりの反省はするが、結果分析をし職員同士で議論し成果や課題を明らかにして次に活かしていくようなことが十分にはできているとは言えません。このことは職員の資質の向上や園自体の質の向上につながる要点であると考えます。また文書・記録の扱いや管理に関して重く受け止めて扱う事の必要性も感じました。

次年度より法人園として新たなスタートをする本園であり、今回ご指摘頂いた改善を要する諸点について真摯に受け止めて改善を図っていくに極めてタイムリーであり、また法人の理念や保育指針で願うところに近づけられ職員一同理解を深め努力していきたいとする意を固める良い機会となりました。

審査に当たってくださった皆様、強い園の応援団であると感じました。厚く感謝申し上げます。